

令和4年度 三保まちづくりセンターの主な取組

事業名

三保ふれあい運動会

P

●事業実施に至った背景、目的

コロナ禍で地域行事のほとんどが中止となり、地区のふれあい運動会も2年連続中止となっていた。このままではコロナが今後終息したとしても地域行事のやめ癖がついてしまうのではないかと危惧し、今年度はどうしてもやりたいという声が地域からあがった。住民同士の交流や健康増進(フレイルの予防)を最優先課題として、時期やコロナ禍での方法を模索しながら開催した。

●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

- ・保健体育部会、地区体協等による実施に向けた会議 (令和4年4月～10月 計8回)
- ・役員会において、実施の決定 (令和4年4月)
- ・事業実施 (令和4年10月23日)

D

●事業の概要

日時：令和4年10月23日(日)8:30～11:30 参加人数：264名

会場：三保まちづくりセンター グラウンド

共催：三保地区まちづくり推進委員会、三保地区体協、自治会

内容：・自治会ごとに受付(検温・名簿作成・リストバンドの装着)をする。

- ・開会式、閉会式は短時間にする。(参加賞は後日自治会を通して配布)
- ・競技種目は体が密着しない、マスクを取らないものにする。

☆例年5月の開催だが、過去2年のコロナ発生状況を踏まえ感染者数が少ない10月にした。

C

●事業実施後の振り返り

- ・自治会等の行事が中止になるなか、できない理由を探すのではなく、どうすればできるかと知恵を出し合っ、無事開催できたことは今後の活動の大きな力になった。
- ・コロナ収束後、秋は祭りなど地域行事が各地であるため、日程等再考する必要がある。
- ・参加の可否が自治会ごとの判断となり、個の意見の反映が課題である。
- ・参加者の笑顔が見られ開催してよかった。

A

●令和5年度以降の方向性

- ・コロナ禍の開催は大きな自信になった。今後は中止ではなく、状況に応じた開催を続けて行こうとの意見で一致した。
- ・ただ、参加に不安を感じる方への配慮も必要である。
- ・日程調整などの課題は残るがすべての自治会の足並みがそろるように、早い段階から準備を進めていく必要がある。



受付



リストバンド



開会式



打って走ってやったー